

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	愛甲石田駅南口バス路線開設事業			事業番号	30-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	都市政策課	飯田 裕一	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	1	安全で円滑な移動ができるまちをつくる	
		施策	30	移動しやすい交通環境対策の推進	
予算事業名	バス交通対策事務費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成25年度	～	終了年度	-
関連法令等	交通基本法、道路運送法				
国・県の計画等	-			計画期間	
関連個別計画	-			計画期間	-
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	伊勢原市の東の玄関口である愛甲石田駅は、平成18年度に南口バスロータリーが供用開始された。しなしながら、愛甲石田駅南口を中心とした交通機能が確保されていないため、南口と郊外を連絡する路線バスの拡充が望まれている。				
目的 (何をどうしたいのか)	愛甲石田駅南口を中心とした公共交通の利便性の向上を図るため、新たなバス路線の開設及び再編成等により、地域の実情に即した公共交通ネットワークを構築する。				
主な対象 (誰・何を対象に)	バス利用者				
事業内容 (手段、手法など)	・愛甲石田駅南口における交通空白地区の解消を図るため、新たなバス路線を開設します。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	東成瀬ルート	継続実施	継続実施		
	歌川ルート	バス路線開設	利用促進		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	開設等路線数	1路線	2路線	2路線	



事業実施 (Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	愛甲石田駅南口において、バス交通不便地区を解消するため、引き続き、歌川ルートの開設に取り組む。		
実施方法 〔選択・記入〕	○ すべて直接実施 ● 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		補助先 神奈川中央交通株式会社
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	東成瀬ルート	継続実施	
	歌川ルート	バス路線開設	
実施した取組の内容	愛甲石田駅南口を起終点として、歌川産業スクエア地区を循環するバス路線(歌川循環線)を新たに開設した。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
	開設等路線数	1路線	2路線

年度		28年度 実績				29年度 実績			
内訳	事業費合計 (a)	6,716		千円				千円	
	国県支出金 ①	0		千円				千円	
	地方債 ②	0		千円				千円	
	その他特財 ③	0		千円				千円	
	一般財源 (a)-①-②-③	6,716		千円			0	千円	
国県支出金の内容									
コスト	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無		前回の改定時期				
		その他							
人件費	正規職員	0.76	人	6,574	千円		人	千円	
	その他の職員	0	人	0	千円		人	千円	
	人件費合計 (b)	0.76	人	6,574	千円		人	千円	
トータルコスト (a)+(b)				13,290	千円			千円	
単位当たりコスト	対象数	定義	対象地区人口(石田、見附島、下落合、東成瀬、歌川)		単位	単位			
		対象数			13,142	人			
	総事業費 / 対象数			1,011	円	円			

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	バス事業者等の関係機関と協議調整を進めながら、愛甲石田駅南口から新たに歌川ルート <small>の</small> 循環バス路線を開設することができた。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業	—	他都市の事業内容等	地域公共交通は、地域のニーズや実情に応じて、多様な形態の運送サービスの普及促進を図るものであるため、他市の事業と一律に比較出来ない。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	既設の東成瀬ルートに加えて、歌川ルート <small>の</small> 循環バス路線を開設したことで、愛甲石田駅南口を中心とした公共交通の利便性の向上が図られた。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	バス事業者等の関係機関と協議調整を進めるとともに、地域のニーズや実情を把握したことで、地域の需要に合ったバス路線を開設することができた。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	今後、開設した循環バス路線の利用実態を把握し、更なる利用促進に努めていく必要がある。
次年度取組方針		開設した循環バス路線の更なる利用促進を図るため、バスの利便性及びバス運行の効率性等を調査・分析し、バス事業者と協議を進めていく。		
所管部長による総評		東成瀬ルートに加えて、歌川ルート <small>の</small> 循環バス路線を開設することができたが、今後も東部第二地区のまち開き等により、地域のニーズや実情が変化していくことが想定されるため、引き続き、利用状況からバスの利便性及びバス運行の効率性等を調査し、バス事業者と連携を図りながら、公共交通の維持・発展に努めていく必要がある。		